
伝文

日本口承文芸学会 会報
第 68 号 2021 年 2 月 発行

日本口承文芸学会
〒168-8508 東京都杉並区大宮 2-19-1
高千穂大学 立石展大研究室
Tel 03-3317-4077 (内線3421)
FAX 03-3313-9034
E-mail info@ko-sho.org

イソップに学んだコロナ禍の一年

花部 英雄

コロナに奔走されたこの一年、人込みを避けながら比較的良好に勉強したのがイソップ寓話である。授業でも取り上げ、また、小文も書いたが、日本の昔話を考える上でいろいろ示唆深いことがあり、ここではそれを紹介して、特に若い研究者に役立ててもらえればと願っている。

紀元一、二世紀ごろに成立した「イソップ伝」によると、イソップは紀元五、六世紀の人とされる。奴隷の身分であったが、後に自由人となって諸国を巡ったが、最期はギリシアで崖から突き落とされ処刑されて終わる。そのイソップが語ったとされる話を中核にして、それが脚色され、別の話が付け加えられたりして「イソップ寓話集」ができあがっていく。中世後期以後にヨーロッパに伝わり、さまざま刊行されるなどして、やがて世界に広く紹介される。日本には中世末にキリシタン神父によって運ばれ、活字化され読まれていく。

イソップ寓話という機知や笑い、諧謔に富んだ動物話が話題になるが、それが紀元前五世紀ごろにできあがっていたということは驚くべきことである。しかも、動物の特徴や習性にもとづいた競争や葛藤に人間の社会規範を盛り込んで、教訓や人生知を示す物語構成の話を見てみると、もともと人間は社会的動物であることを強くする。その物語構成は底流において日本の「動物昔話」にも共通するもので、つつい比較しながら納得する。

翻って、神人交渉を基盤にした人の生涯を本格昔話の中心におき、動物昔話を派生として位置づけた柳田國男の昔話理論との整合性に戸惑いを覚える。柳田の昔話理論は、神の恩寵にあずかる主人公の宗教心や信仰の篤さが行動の基本にあると説くのに対し、イソップ寓話は知恵や機転や社会の仕組み、人間関係の現実根拠を置いた内容に特徴がある。一つ具体例を取り上げよう。

「姥捨山」に「難題型」というサブタイプがある。隣国からの難題を老人の知恵で解決するという話であるが、先述した「イソップ伝」に、バビロニアの宰相であったイソップが讒言に遭い、死刑を宣告される。執行人の将軍が匿い、その後エジプト王から「空中の高塔」を建設せよと難題を課して攻め滅ぼそうとする。将軍はイソップが存命であることをバビロニア王に伝え、解決を図る。イソップの指示で驚に運ばれた空中の子どもが、早く建築資材を上げてくれと知恵で相手を負かすのである。

ところが、この話が紀元前八世紀のアッシリア王国のトビトの甥の「アヒカル物語」にあると、中務哲郎『イソップ寓話の世界』(中公新書)は指摘する。「難題型」の昔話は、知恵で戦争が回避されたという平和的な解決法を示すが、核戦争という武力に脅えながら生きなければならない現代人にとって、なんと素晴らしい皮肉ではないか。イソップは紀元前に遡る古さだけでなく、現代に通じる先見の目を持っていたということになるのか。

(神奈川県)

第78会研究例会「中近東・韓国・日本における子どもに手渡す物語」の報告

繁原 央 (静岡県)

第78回研究例会が令和2年11月28日(土)の午後2時から5時にかけてZoomで開催された。テーマは「中近東・韓国・日本における子どもに手渡す物語」である。

シンポジウム形式で三人の講師の発表があった。中近東は片桐早織氏が「中東における子どもの本の世界—サウジアラビアを中心に—」という題で、韓国は大竹聖美氏が「韓国の児童図書出版における神話と昔話の諸相—アイデンティティの模索と世界化—」という題で、日本は大島廣志氏が「日本における昔話と昔話絵本の諸問題」という題で話していただいた。

片桐早織氏はアラビア語、トルコ語、ペルシャ語の翻訳家であり、聴き耳の会事務長をつとめていらっしゃる方で、今回はサウジアラビアを中心にイスラム社会の子どもの本の実態を、画像を中心にを見せてくださった。

絵本はどこの国でも多く刊行されているだろうが、中東の絵本をみる機会がないのでいずれも興味深く拝見したが、イスラム教の教義が色濃く影響していることが衝撃だった。それは偶像崇拝の禁止のため、絵本の人物の顔を描いていないということである。場合によっては動物の顔の部分を描かないこともあるそうだ。宗教が子どもの本に影響するのは当然のことであろうが、イスラム教のことを知らない者にとっては驚きだ。

二人目の大竹聖美氏は東京純心大学教授で、韓国児童文学・絵本の翻訳研究をしており、最近の翻訳絵本に『イワシ大王のゆめ』『ママは100めんそう』『チェックポ おばあちゃんがくれたたいせつなつつみ』があり、今年も『ママとうみのやくそく』を出版されている。

韓国の児童文学の創始者・方定煥(1899~1931)の「愛の贈り物」童話集の紹介から、1930年代の金素雲(1907~1981)の『朝鮮童謡選』『ネギをうえた人』などの足跡をたどり、現代の創作神話のことまで丁寧に映像で見せてくださった。『植民地朝鮮と児童文化』の著書がある大竹氏の該博な知識により、韓国の子どもの本の歴史と現状を知ることができた。

三人目の大島廣志氏は会員で例会委員でもあり、『三右衛門話—能登の昔話』『頭に柿の木』『民話—伝承の現実』などの著書のほかに、現代伝説の著作として『走るお婆さん』『幸福のEメール』『ピアスの白い糸』などがある。日本における昔話と絵本の問題を手書きのボードを使って発表された。

伝承されてきた「笠地藏」の話を再話した三種の絵本の比較から、同じく「桃太郎」や「山男の手袋」などを例に、書承から口承へ、口承から書承へと継承される問題を具体的に論じてくださった。

Zoomでの発表はパワーポイントなどを駆使しないと分かりにくくなる恐れがあるし、質疑などどうやるのか不安ばかりだったが、11月1日に立石展大会長と佐藤皇太郎氏の指導の下、打ち合わせと予行をしたので少し安心した。当日の発表は質疑も含めて無事にできたと思うが、パソコンの操作がうまくできず参加できなかった会員もいたのではないかと危惧している。

特集：語り手の会の報告

コロナ禍の中で語りをどう追求したか

立石憲利(岡山県)

コロナ感染症の影響が最初に現れたのが、2020年2月末でした。岡山県北の勝央町で活動している「勝央民話を語る会」（11人）の発表会（3月1日）が、コロナで開催できなくなったとの連絡。

それを皮切りに3月は語りや講演会が、8か所すべて中止、4月になると11か所が中止になり、その後、一般の講演会はゼロ、語りもわずかになっています。

4月になって岡山県語りのネットワーク（29グループ）、6個人、約270人）に加入しているグループのいくつかは電話。どこも語りが中止だと。一つは学校や幼稚園、福祉施設などでの語りができなくなったこと、二つは語りの会場だった公民館など公共施設が全く使用できなくなったことによるものです。

そこで各グループあてに、語りができない時期だからこそ、民話資料集などを読んで新しい話に挑戦しようという激励の手紙を送りました。また、筆者の刊行されたばかりの『新庄村の暮らしと俗信』を、民話が語られていたころの人々の暮らしの様子を知ってほしい」と手紙を付けて、各グループに贈呈。

この取り組みは、グループを励ましたようで、手紙と本によってかたまりをやるうという気持ちになったという感想が多く寄せられました。

久しぶりの講演と語りが、8月30日に開かれました。県北の奈義町で活動している「なぎ昔話語りの会」からの夏の講演として筆者に「疫病と民話」の講演と語りをしてほしいと依頼されたもの。

当日は広い会場に一定の間隔をおいて椅子が並べられ、「20人ぐらいだろう」ということでしたが、結果は50人が参加。そこには町内の一般参加者ととも県北の語りのグループからも多く参加がありました。語りのグループのみなさんは、久しぶりに会え、語りが聞けたことを喜び、語りをしなければという気持ちになったと話していました。そして九月以降、県内全域で語りの発表会などが開催されるようになっていきました。

筆者も語りなどが激減するなか、語りをどう届けるかと考えました。以前に、民話の語りを放送したことがあるFMおかやまに連絡、4月から10月まで、月2回の民話の語り（15分）を放送することができました。また、継続しているoniヴィジョンとRSK ラジオ放送でも、コロナ禍の中での民話の語りを意識して取り組みました。

さらに機器に弱い筆者だからと、美作地域のみなさんがYouTubeで「立石おじさんの民話」を流してくれています。6, 8, 12月に、夏、秋、冬の民話を各10話語り、収録したものです。

語りはナマがいちばんです。10月ごろから語りの会が次第に増えてきています。11月には例年行っている小学校（2校）で9回語りをを行い、子どもたちが喜ぶ姿を見て、元気を出して語ろうと決意しました。

伝承の語り手・渡部豊子女と「新庄民話の会」の活動

(談)渡部豊子(山形県)・(記録・注=*)米屋陽一(千葉県)

2021年1月13日、山形県新庄市在住の渡部豊子さんに電話をかけた。流行語になった「三密」(対面)がふつうであった語り手・聴き手・語りの場…。コロナ禍・コロナ状況下の語りの場は、どのように変容したのか、昨年の暮れに下話をしておいた。そして今回の電話に繋がった。久しぶりだったので、あれこれと約45分の長電話になってしまった。その一部ではあるが、山形・新庄の語り手からの貴重な発言・発信をお届けする。

* * *

◇**新庄民話の会・語りの部屋**：会場は「新庄ふるさと歴史センター」の「語りの部屋」。「語りの部屋」は市の仕事なのね。新庄市の要請で毎週日曜日、午後1時から3時まで、民話の会の会員で、かわり番で語りをするの。誰が何月何日に語るか、年間決められているの。2月から11月まで実施。12月、1月は休み。

*「新庄民話の会」：1986(昭和61)年、設立。初代会長、大友義助氏。著書に『私の民話ノート』などがある。

*「語りの部屋」：1999(平成11)年、スタート。

◇**みちのく民話まつり**：よその人たちに語りを頼むということはめったにないんだけど、わざわざ新庄に来てくれたから、来てくれた人にひとつでも多くの昔話をとということで。民話の会全員語るんだけど。時間はだいたい午後1時半から4時までとかっていってても、4時にならなかつたり、「時間が余ってしまったなあ、もったいないなあ」っていうときは、半分くらい語れば分かるでしょ、「これは早めになるなあ」というときは、来た人ですぐ語れる人をお願いするの、しないときもあれば、そのときどきによって…。(会場は「矢作家」など)

*第1回「みちのく民話まつり」：1987(昭和62)年、スタート。当初は2月に開催。現在は

10月の第2土曜日に開催。2020年は中止。いつもの参加者100何名かに、一人ずつ「中止のお詫び」を出したという。

◇**学校の語り**：学校から「誰々さん、来てください」という要請があるのと、「民話の会の誰でもいいから来てください」というのと、2つあるの。語り手の調整がつけば「行きます」ということで、学校へ1人で行きます。3つも4つも持たないけれど、2つくらいは「いいですよ」って持つことはあります。1回行くとなじみになるから、「何々小学校は、誰々さん」「何々小学校は、誰々さん」って決まっていくわけです。

◇**萩野学園・昔話**：私は萩野学園と升形小学校の2つに行っているんだけど。それはボランティアだけど、民話の会で把握していないと何かあった時に困るからね。市内で語る場合は会長の方に連絡します。事故が何かあったりしても、自分勝手に行つて何かならないようにね。

萩野学園は1年生から9年生までであるのね、小中一貫校だから。何年生になるかは年間の読

み聞かせの人が入るから、年間スケジュールがあって、萩野学園は1カ月に2回なのね。だから、「何月何日は、何年生に行ってください」っていうスケジュールを渡されるんだけど。

〈萩野学園・伝承文化学習〉：もうひとつは、地域の授業ということで、地域の歴史とかね、伝説なんかを勉強する授業があるのよ。それは4年生になると必ず始まるの。5月から11月か12月頃まで続いて。1カ月に2回の授業があるの、「地域の伝承文化を学ぶ」ということで。それがコロナで、去年までは、先生にどういう授業したらいいか、「打ち合わせに来てください」っていわれるんだけど、「去年はこういう勉強しましたよ」っていうと、1回の授業は話をして、2回目はスクールバスで、歴史とか伝説を訪ねて、実地検証じゃないけれど、実地の勉強に出かけるわけ、「何々っていうには、この沼だよ」「おけさ堤は、これだよ」とか。

〈升形小学校・昔話〉：升形小学校は1カ月に2回で、小規模でだんだん、だんだん生徒が少なくて、複式学級なの、だから12、34、56年生と、秋ごろから行っているんですけど、「1カ月2回、来てください」っていうように、新しく授業のプログラムを変えたんじゃないですか。コロナで休んでたから。12年生を語ったら、次は34年生、次56年生。初めと終わりに、全校生に語るんです。そんな風になっています。「地域の文化伝承を学ぶ」授業じゃない限り、授業前の朝8時15分から始めて、35分までに終わらせるの。打ち合わせもあるから、だいたい8時5分ごろまでには行くようにしているの。

◇**新庄こども語りまつり**：今のところ2月（第2日曜日）に、「新庄こども語りまつり」するようになっているんだけど。そういうのがあると、放課後、指導に行ったりするの、1回か2回。それは授業が終わってから。語り手は先生が決めるのではなくて、「語りたい人」ってゆって、手をあげた子ども、希望者。民話の会では人選には関係しないの、誰いいとか、こっちの方が上手みたいだとか言わないで、先生も「語ってみたい人いるか」ってゆって。11月か12月ごろ、「しゃべりたい人いるか」って、先生が手をあげさせるみたい、どこでも。「今年は誰と誰と誰がしゃべりたいって言っている」って言えば、『新庄・最上の昔話』（大友義助編集・新庄民話の会）から語りたいものを選ばせてください」って、こちらからお願いするの。こっち（新庄民話の会）では、何にも決めないのよ。「あれ語れ、これ語れ」って言わないで、子どもに話の選定をさせて、決まったところで、「こういう風に語るんだよ」って語らせてみて、違ったなと思うところを「こういう風に語るんだよ」って、「これはこういうもののことを言うんだよ」とか、そこに出る人たちに民話の会の会員が行って、指導に行って、私みたいにししゃべりに行っている人が指導に行くわけ。

萩野学園はこのごろねえ、4年生になると授業を持つでしょ、先生たちも楽だと思ってか、子どもたちも必ず昔話を一つか二つ、1年で覚えるのよ。そうすると4年生を出すことが多くなって、みんな語れるから。その中から「文化祭」で語る人、「公民館まつり」で語る人、「新庄こども語りまつり」で語る人、「新庄民話まつり」で語る人、どこかに行き行って語る人って、手をあげさせて、自分のいいところに分けられるんじゃないですか。私はよく知らないんですけど、そんな風になっているみたいです。コロナですっかり変わってしまっ…。

*「新庄こども民話教室」：2003～04（平成15～16）年、実施。

*「新庄こども語りまつり」：2007（平成19）年、スタート。

◇**福祉施設の語り**：老人クラブ（新庄市老人福祉協議会）もけっこうあるのよ。私も頼まれてる老人福祉施設が2カ所あります。1カ月に1回か2回行っているところがあるのだけれど、今はコロナで休んでいるけれども。それも、「ここここに行っています」ということだけは…。

民話の会の会員同士の話では、「そこに行った時、こういうことあったよ」って、良いことでも悪いことでも話することあるし、だから、みなさんが私が福祉施設2つに行っているってこと知っているし、「練習したいからいっしょに連れて行って」っていう人もいるから。

「じゃあ、一緒に行こう」ってゆって、会員を連れて行って一緒に語るときもあるし…。

◇**矢作家の語り**：たまたま老人クラブの研修会に、私が頼まれていて担当したんです。むかしはああいう家（囲炉裏がある）にみんな住んでたから、雰囲気もあるし、「昔話、こういうところで聞いたわなあ」「こういうムカシ、聞いたったなあ」、じんちゃんやばんちゃんがよく思い出して、よくあすこ（矢作家）でいいとかっていわれれば、あすこはみんな使っているところだから、市にさえお願いすれば、無料で使えるところだから。

*「旧矢作家住宅」：国指定重要文化財。江戸中期に建築されたと推定。

◇**コロナ禍・コロナ状況下の新庄市内の語り**：去年（2020年）は、「新庄こども語りまつり」終わったら、あと全部だめだった。2月の第2土曜日だったから、その後はコロナ、コロナでね、3月、学校休みになって、高校生卒業式できない、ほらなんだから、新庄にそんなにまだコロナ来てなかったから。「新庄こども語りまつり」終わってから、3月に昔話を聴かせる会・聴く会、聴きたい人に聴かせるって会を設けているんだけど、あれはしなかったし、総会もいつもは4月にするのに6月になってしまったし、市の施設を使うものは閉館・閉鎖になってしまったから、全部中止で、6月にようやく総会をやったんだけど。

7月7日、七夕の時に夕涼みしながら、歴史センターのお祭りホールに、130人ぐらい市民が集まるのね。「昔話・七夕の語り」っていうとね。「7月7日7時7分から7名で語る」、それも中止。人が入れないから、全部、すべてが中止になったね。だから、交流会も中止、研修・視察も中止、いちばん大きい「**みちのく民話まつり**」も中止。ほとんどが中止で、ただ8月から「語りの部屋」の語りだけは、やっていたんです。

昨日、（1月12日）小正月の行事して、新聞にもテレビにも出て来たんだけど、「雪中田植え」、カサかぶって、ミノ着て、ワラジはいて、ワラとマメガラを注連縄したところに、雪の上で田植えする、真似っていうか、お神酒をまいて…。いつもは子どもたちといっしょに、「なしだんご」作りしたり、雪中田植えを見たりするんだけど、コロナだから呼ばなかったの。とにかく人を呼ばないで、民話の会の会員だけで雪中田植えして、大きな木にしたんだけど、歴史センターは休館日だったから、それを利用して民話の会会員だけでしたんです。「これだけは、しなきゃならないねえ」って、「年中行事だから」って。

「**語りの部屋**」は継続しているけれど、人が来ない、多くたって1人2人来たり、やっぱり2時間は当番の人が「語りの部屋」で、お客が来ても来なくても、そこへへばりついてる時あ

ります。福島あたりから来たり、仙台の方から来たり、大勢では来ないけれどね、来たりします。市内の人より、県外の人っていうか、「秋田から来ました」「宮城から来ました」とか、必ず「どちらからいらっしゃいましたか」って聞くんだけど、市内だったらだいたい顔分かるし、ちらほらです。

「**新庄こども語りまつり**」、子どもたちの語りをいつもは25名くらいを目安としていたの、それが今年、10人ぐらいしかいないんです。コロナともうひとつ、市内で統合、小中一貫校になる学校があるの。4月から学校なくなるところで、一所懸命だったんだけど、忙しくて、コロナで学校は何カ月も休んだ、今度は統合なので、めちゃくちゃ忙しくて、子どもたちの昔話、なくしてるみたい、私の行っているところじゃないから、頼んでないみたい、「昔話も休ませてください」ということで、今年は休んだみたいです。

子ども10人くらいだから、コロナだから会場はものすごく大っきなところ取ってしまったの。

だから、「どうする」って。子どもたち、せっかく楽しみにしてんの、なしにするのも可愛そうだし、指導している会員のばさまたちが、どこどこ小学校の子どもが語ったら、指導行っている人の子どもも来るんだし、きょうだいたちやじいちゃんばあちゃん、聴きに来るんだし。指導行っている人たちが、子どもたち語ったら、語ってけるようにしたらどうだやっていうことになったのよ。だから、子どもたち10人さ、学校に指導に行っている4人の会員が入ることになったの。指導に行ってるなんていったって、語って聴かせるぐらいなんだけども、この人が行ってるんだよっていうのも分かるんだし、ちょうどいいのんねかっていうことで。

「新庄こども語りまつり」始まって、今年で16回目なのねえ。1時半から3時までって、いつも1時間半で終わってるんだけど、ちょちょっと語ってあと残りだっていうより、今年は会員が子ども用の昔話でも語って聴かせたら、せめて1時間ちょっとぐらいの時間、民話にしたるようにしてあげたいのんねかあって、会長の発案で、出ている学校に行っている人がいっしょに語るという方法、指導者も語るという…。

*「雪中田植え」「なしだんご」など、小正月の行事に関しては、大友儀助監修・渡部豊子編著『昔話と村の暮らし—山形県最上郡旧萩野村—』（133～139頁）に、豊子女の父母の語りを紹介している。

*豊子女の著作に、日本民話の会編『渡部豊子の語り』（「新しい日本の語り」シリーズ）DVD付き）などがある。

2021年度の第45回大会と第79回研究例会のお知らせ

2021年度の第45回は、現在のところ6月5日（土）・6日（日）の両日に東京の高千穂大学で開催予定です。ただし、今後の新型コロナウイルスの感染状況によって、開催方法などに変更が生じる可能性があります。大会案内は、後日改めてお送りいたします。また、研究発表の受付を、別紙案内のとおり3月10日（水）までおこなっています。皆さまのご発表をお待ちしています。

また、第79回研究例会は、別紙でご連絡のとおり、2021年3月13日（土）にZoomを用いて、オンライン開催をいたします。「シンポジウム：東日本と西日本の西行伝承」です。皆さまのご参加をお待ちしております。

事務局便り

○会員の異動（敬称略・五十音順）

《退会》 鈴木昭英（新潟）・兵藤裕己（東京）・山田美穂（岡山）

○日本口承文芸学会事務局

〒168-8508 東京都杉並区大宮2-19-1 高千穂大学人間科学部 立石展大研究室

Tel: 03-3317-4077（内線3421） Fax: 03-3313-9034

E-mail: info@ko-sho.org

日本口承文芸学会を広くご紹介下さい

日本口承文芸学会への入会を希望なさる場合は、事務局にご連絡いただくか、学会HP（<http://ko-sho.org/>）から入会申込書をダウンロードして、ご記入のうえお送りください。

入会金なし、年会費4000円です。郵便振替口座 00180-4-44834 をご利用下さい。